

## キラリ☆ 中野のチカラ

原 香恋 さん 【岩船】



このコーナーでは、大人から子どもまで魅力ある市民の方や団体などを紹介しています。

今回は、多様なジャンルの演奏活動を行いながら後進の指導に当たっている、チェロ奏者の原香恋さんにお話を聞きました。

## ○チェロを始めたきっかけ

チェロ指導者の父の影響で、3歳からチェロを始めました。チェロ一家で、兄も妹もチェロ奏者として、オーケストラなどで活動しています。4歳のときには、オーストラリアの演奏旅行に参加しました。

## ○わたしの原点

大学在学中にチェロを学ぶために留学したシドニーでは、日本の伝統芸能にも興味を持ち、修行のつもりで、オペラハウスの前で大道芸を披露していたこともあります。独学で覚えた三味線や、父から教わった



「南京玉すだれ」などを、一人和服姿で演じていたのですが、お客さんの厳しさと温かさを肌で感じることで、その後の演奏活動に大きな影響を与えてくれました。

## ○音楽の魅力

楽譜だけを見つめているのではなく、その楽曲の背景や作者の思いを想像し、自分なりの解釈を膨らませて奏でた音に対して、お客さんの反応を肌で感じられることが醍醐味だと思います。

## ○指導者として

音楽に限らず、知りたい情報が何でもインターネットで検索できてしまう時代で、昔に比べて情報の価値の深さが無くなってきているように思います。自分の足で探し、目で見えて耳で聞いて、手で触って感じた体験こそが、自分の「本当の力」になるのだと思います。子どもたちには、本物とより多く触れ合っただけで感性を磨いてもらいたいと思います。

## ○今後の抱負

地元の豊かな素材を活用した楽器づくりに興味があり、先日、地元のアム屋さんをお願いして、昔ながらの方法である豚や羊の腸を使った弦を自作してみました。今度は、馬の尻尾の毛を使った弓を作ってみたくと考えています。また、バラまつり期間中には、一本木公園で「ハーモニー」のメンバーとして演奏を行います。美しいバラと音楽のマリアージュを楽しみにぜひお越しください。

## 広報クイズ

## ■今月のプレゼント

「JA中野市さくらんぼ狩りペアチケット」：2人

## 問題

本年度誕生100周年を迎えるのは、「故郷」「朧月夜」と、

「●●●●●の唄」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 6月23日(月)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 血糖値を下げる唯一のホルモンといえば？  
答え・・・「インスリン」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課  
秘書広報係 行住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主



ソチパラリンピックにクロスカントリー・バイアスロン選手サポートチームの一員として参加した、市役所税務課に勤務する岡利哉さんのレポートの後編をお送りします。

最適な種類のワックスを絞り込む方法は、実際に異なる種類のワックスをかけた何台ものスキーに乗り、100分の1秒まで計測可能な機械で何度も斜面を滑り、スピードを計測します。多い日には、それだけで累積距離が20kmを超えることもあり、積み上げたデータの中から、その日のベストを導き出し、実際に選手に使用してもらおうといった形になります。プレッシャーは感じましたが、毎日充実した日々が続きました。

日本クロスカントリー・バイアス



▲ワックステストの様子



▲クロスカントリー・バイアスロンチーム

ロンチームの結果は、銅メダルが一つと、目標には届きませんでした。しかしながら、ハンディキャップものともせず、己とライバル達に立ち向かう選手の姿を見て、私は人間の限らない可能性に触れ、大会スローガンである「impossibleから[in possible]」(不可能は可能にできる)への意味を強く感じました。選手達は既に、4年後の韓国・平昌(ピョンチャン)大会に向けてスタートしています。日本国内のアスリート活動に対する環境整備は、欧米諸国と比較しても極めて遅れている状況ではありますが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を機に少しでも好転することを願っています。

## 池田市長の

# わくわくレポート

vol. 11



### 童謡・唱歌のふるさと

新緑が眩しい季節から、次第に緑が深く変化していくこの頃。バラまつりの季節を迎える。

今年、「故郷」『朧月夜』『カチューシャの唄』の誕生100周年を記念して各種イベントが企画開催される。中野市は童謡・唱歌のふるさととして音楽に慣れ親しみ、憧憬の深い風土である。合唱団など活動する団体は数えきれない。高野辰之、中山晋平、久石譲さんをはじめ、器楽演奏家、声楽家なども数多く輩出している。こうした土壌はどのようにして生まれて来たのか。豊かな自然と四季の移り変わりが、住まう人の心に響き、声となり唄となり、音楽に親しむ風土が醸成されたと思える。



今年、既述の様な特別な年でもあることから、特に郷土が生んだ高野辰之、中山晋平、そして久石譲さんを繋ぐという思いを込めて、麻衣さんによるコンサートが企画開催の運びとなった。また、麻衣さん

には中野市音楽親善アンバサダー(大使)として、様々な音楽事業や活動に際して、広く中野市を支えていただくこともお願いし、快くお引き受けいただいた。

バラの香に載せて、音楽が流れ、中野市の美味しいと楽しいが一斉に花開く6月。今年、ばらサミット(ばら制定都市会議)、ブルガリア大使とバラの女王の招聘、土びなもサミット展、関係都市の合唱団にお声掛けしての「童謡・唱歌のふるさと」信州中野アンサンブルフェス、商店街の皆さんによるワンコインセールなど、市街でも様々な工夫された企画が目白押しである。ばらサミットに訪れるお客様と市民の皆さんとが一緒に、まずはバラの祭典「信州なかのバラまつり」を盛り上げ楽しんでいただきたい。

市民の皆さんがもつと音楽を楽しみ、音楽に親しむ環境づくりに向け、今後もソフト・ハード両面から総合的なアプローチにより政策を進めて行きたいと思う。童謡・唱歌のみならず、音楽を生活文化に取り込み、調和しながらの確かな暮らしがある。そんな中野市を目指したいと思う。